



# 佛國對外債權拋棄

近く駐佛大使派遣  
新獨首相佛國ニ了解を欲す

勞農僧正を特赦

防三火旅館

キンゼー優勢

夫婦者又男子二名

大婦者

近く駐佛大使派遣

新獨首相佛國ニ了解を欲す

勞農僧正を特赦

大婦者











## 春から夏へ

[六十一]

寺澤琴風



お闇はひしょ濡になつて自分の軒に立ちました。——雨を含んでいたばかりの家の軒に立つて、お前がこんなに心配して聞いてゐるのに、お前は一體どう思つてゐるのか

お闇はいふ。「お闇、お前はどうしてさう軒の中から浮き出た美しい女がいるのです。着物心配して尋ねてゐるのになつて、お闇は義太郎と共に、もうもの十時間ばかりつきりなしに異なり、その毛毛に含みきれなくなつた雨のは、煙を傳ふて首筋から肌へと無氣味に流れます。

お闇はいふ。「お闇、お前はもう少しに異なり、その毛毛に含みきれなくなつた雨のは、煙を傳ふて首筋から軒に突つ立つたやうです。顔の色を見た……」

「お父さん、私はやはり黒川さん

は、お闇のやうに青白く霧かれたやう

な顔であります。眼を据えて、

突然サト横などりにお闇の顔を見つめてゐるお闇を冷

静に第三者が觀察したら、精神に

異状を來した者と見られるで

あるのが、今は漸く洩しづつ

てゐるのだが、お闇は少少の雨

が、お闇はお前をもつて、お

お闇はお前をもつて、お

お闇はお前をも